

6 7 8 9 80

1

2 3 4 5 6 7 8 9 90

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

2 3 4 5 6 7 8 9 100

1

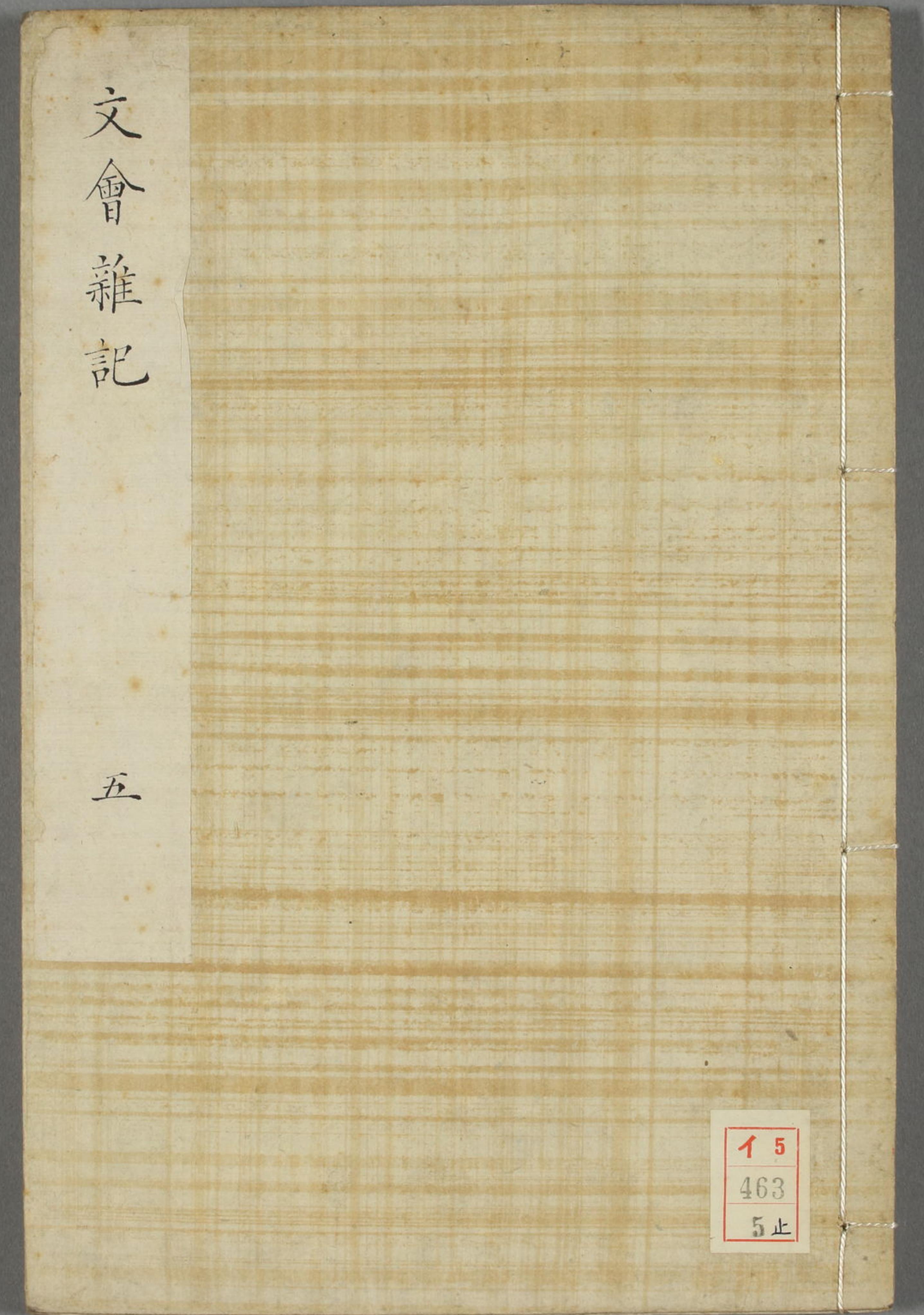
2 3 4 5 6 7 8 9 100

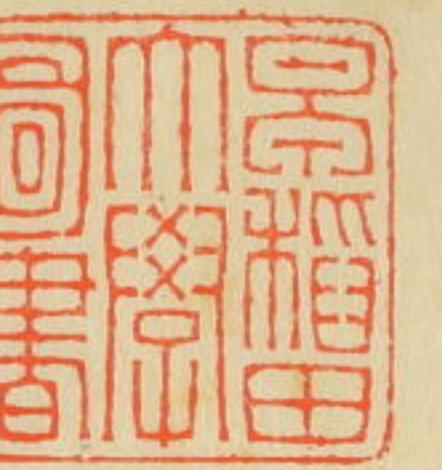
1

文會雜記

五

15
463
5止





文會雜記附錄

備藩

湯元祖之祥識
男明善子誠輯

一告藩ハ神祖郊祀シ玉フハ正保年列公ノ　台廟ノ賜ナリ
神祖ノ神輿ハ善ツクニ美ツキセリ告　大東ニ日光山ノ神輿ト告
藩ノ神輿ト只ニツコニヨリ美ナルハナシト世ニミナノ祖カ大父ノ遺籠
中ニ神輿ヲ造テ名時ノ日録アリ神輿及旌旗戈矛駿貌ナリ今
銀拾七貫目ノ料ナリ詳ニ其事アシルセリ祖ク四世ノ祖其時
神祖廟ヲ經宮セル總管シ故ナリ今ヲ以テ見レハ三百貫ノ銀ニ非
六造ラルカラスト人ニト固テ想アニ往古物價ノ既シキアシルシ
神祖廟ヲ造ラシハ正保元年ノヲナリ　效祀ハ正保三年丙戌始

一ノ今ヲエルツ百年ナリ又 烈公自嗜ヨリ備前封シタシフハ寛
永年中ナリ其時ノ人ニシハ固情テ木三芭ノ銀三十錢ニ耀シキ備前
ミテハ二十五錢目ニ耀トシワタアリ又室町日記ヲ聞スルニ天文年中ナリ
木石ヲ六錢目セシ賣ルニ見エタリ又其時モソニ元一錢目六文
シタル由見ニソトニ瑣細ノトニレトモ信道ニ志アラン人ハ時價ノ貴賤ヲ知
ヌハ其世ノ有リニ知難ルヘシ未價ノ貴賤ハ預別ニ考アリ
烈公宗廟ノ建セタマフ後平安ノ伶人末リテ昇樂ス此ノリシク
丸川助左門轉スル所ノ記ニ見エタリ其記甚幽ノ人ニ出テスト人ノ
詔ソキ

一民人ハミシハ今江戸ニ元三大師ノ畫像ヲカシタルニ思ニ出セリ已草下

ニル俳諧ノ男ノ角大師井ヰノカハツヒナシ哉滑稽中ニサ雅ナル意

アノ
一中華ミテ古ニ婦女ノ文オアリ曹大家班婕妤ナトサノミ多カラヌ賢
明ノ婦人ハ多シ日本ニテ文ズノ婦女赤條左門些式部清友納言
莘牧率スニカラス但筆法ニ巧ナルヲ圓ス吉廣ノ藥師院ノ榜ハ
寶鏡寺ノ内親王ノ書ナリ醫王閣ノ三大字ナリ筆はノ雄偉目ノ驚カ
ソ預諸所ノ榜ヲ見ルニ如斯美觀ヲ見ス今ハ婦女ノ才吉及父ト思
ニシ吾ニ元超過セリ

一禪俳諧好テサトモ芭蕉カ向トテ閑シ陸奥國ニテ源延尉舌跡ヲ
尋高館ニ夏草マ無トモノ夢ノアトニシハ感慨サシアルマウナリ
一青地ニ之至ハ余ノ藤岳尉ノ父ニテ 烈公ノ射隊ナリ
烈公ノ射隊二十人アリ 烈公常ニ匣丘中將義貞ノ十六騎ノ童ノ

擬シタマヘリ今ノ藤兵衛元甚射ノ巧ナリ又ニ之矣百發百中ナリ
藤兵衛母ノ詔シト告兒イカテ力射術ノ字心得シマ父ミハ志ヲト
シ者ナリ父ナル人ニウツカタニ守ハカリニシテ入常ニ喰ミシテノ人ニ詔ル時
チヲ神ニイニテヒナリ祀リテ終食ノ間モ忘レサリシトニシテ閑タル人ノ予
詣シ聖人ノ學ニ志ス者ワクソアルキ

一或會ニ日蓮親鸞ノ物語アリシ時予謂今ノ世ノ厚者ノ儒者ヲ
タダシテ窺テ佛法ヲ悲ニ日蓮親鸞ヲ譏ルナハイカニシテ彼入ノ
初ノ法ヲ說タル時獨五ニテ海内ヲ對ストセリシカモサモ屈境セス
死刑處セラレテモ懼レ色ナシ豪傑ノ士ナラスマ學者ノ先王ノ道ヲ
信ノ守死善道モノ恐テクハ役二入ニ及カタカルヘシ

一本藩中原ニ烈公ノ遊覽ノ所アリ中原旭川ノ側ニアリ夏日

避暑ニキトタラナヌシノ家ニテ幕申トアリテ置ロ玉ニテ至リタ
ハ幕ヲテ毛氈ヲ高床ノ上ニキテ行厨ヲ喫シタラ今カノ齊高床
數丈間牛馬ヲ放カハス里民ニシテ放セリ召伯日本ノ首モヤル
トニコソ

一小森可久字子徳久松文之進篤美ノ士ナリ贊神ノ匠ニテ典籍ヲ目レ
烈公ノ寫シタマヘル書文十長櫃二棹アリテ毎夏ニ虫丁スルトテ詳
詣リキ烈公薨シタマテ七十年及ヘリ即壯年ノ頃ニ書ヨ利水
勘リシ故旦邑書法好ニ玉ニテ初、青蓮院尊純親王ノ序子トニテ
西ニ後ニ法帖ヲ見テ慕玉フテカ先人賜ヒシ愷悌居子民之父母
トニル八字楷正雄傳ノ殆中華久文又カラ文又王陽明ノ客坐ノ私稅
石刻ヲ屏風ニ置エニ其三字缺クシテ補書シ玉ヒシ

ヨシ今伴言ニアリイフカ 公ノ御直蹟ミト尋サボレモ辨識セレ
人

一後水尾帝ノ御讓位蘭東ヨリトソハカフイタルニ殊ニ逆鱗アリテ
御讓位時御フスニ首ノ御製ニ書セリマフ

芦魚ハモケラハモル天トテモ道行ニ世ナリハモ
此のカハ上に目も模よ止芦乃の加比也モ勿ヘの也

予ノ幼時野村先生ノ詔リタヒシ今既ニ二十年及ヘ猶耳ニアリ

噫

一烈公ノ時太島ノ海上ニ浮ニ東シテ山中某鳥銃ニテ風キリノ羽ヲ
ウチキリシカ飛翔スレアヌスピニツレ未リシテ野麿色ノ古ニ放ケ
キ一丈七八尺餘リモアルニ家鷺ノカタチニ似ル物ニ色ハウス子モ色

テクニ子ニ大ナル囊アリ魚鼈ヲ食ヒタルヲノラタソ見タルト岩用
翁ノ詔タシ也コレラ世ニハ大ナシカモノト云タソニ因テ詔ニ寔居ナル
ニ其時知礼ノ君子ナヤソセハ曾ノ東門ニ樂ヲ以テ食スルノヲアルキニ
トエタリキ後ニ詩経名物辨解ヲ見ルニ鷺ノ條下ニ昔年備前國
山ニ出タリシ左傳ノ寔居ナリトシルセ

一丙寅春二月二十日烏山ニ遊覧ス烏山ノ麓即平家物語ニ見工
毛篠瀬アリ也今ハサカミノ堤ト云ヘリ烏山ノ北ヨリ流レ先ル川ニ長
堤アリ屈曲セリ平家物語ニ見テル福輪寺ハ今ナニ左右ハ深田云
アリ今モイカニモフロケシ烏山ハサノミ大山ニ非入泰ノ山ヨリ西ニシキル
山キノ頂ニ六塚アリ土人相傳テ第一ノ冢懶尾太郎兼安ノ塚ト云
烈公ノ時塚ノ堯キリ棺ノ中ヨリ多ク米砂ヲソ出スニテ賣タル者アリ

即死刑處セラレモトノ如クニ埋ニタヲト云ナリ石碑ハナシ但平家物語
見ハ板倉川ノ西ニテ付セタルト見ニタレハ板倉川ノ西ナラシム備中國
ソクシイカミラシサシ氏道程ニ至高ニ事敵ノ後鷹尾カヨシミノ者トエ
此山ニ埋テ盛衰記見エタル岩ノ山號ア設ケタルト見ニタルハ鳥山ノ
前ナルイニキノトアルハシイナシテ記ナリト覓ニ帰路兼與七律一章ノ賦ス
崢嶸鳥嶽一登臨初地杳茫何處尋岐東長河風雨散休停殺
氣蘚蘿深斷崖白日戈鋌色千載青山烈志偏憶孤忠暮
兵地悲歌彈劍淚沾襟

一源賴朝女ノ梶原景茂ニ賜リシ時正月雨ニ沼ノ右カニ水ニエテイ
ツアヤナトニキソワツラフト景茂カヨム由沙名集ニ見ニタリサ名
集ハ梶原景時ク季子ノ著セシ書ナハ詐偽ルヘカラ又然ハ

賴政賜タルト云ハ附會ノ說ナルカ平家物語モノセスサラハ太平
記ニ載セタル高師直ノ平家ヲカクラマタクニイカ、覓東ナシ又師直ハ
歌人ナリ師直ノ家人會ト云丁頃阿法師ノ草庵集ノ中モア
ト覺ニテ六太平記ニセタル兼好ノ艶書ツクルハ室祿ニアラカ
ハ師直ノタクミテナドミニ附會セニシマ兼好カ為ニ嘲ヲ解ニ似タク
一近江ノ湖ヲ鳩ノ海ト和歌ニヨメリ鳩ト云字字彙ニモ見工スカイ
ツクリノトセトニサラハ鳴ノ字ノ字ノ訛丸ヘシ近年近江國ノ圖ヲ
刊行セリヲ見テ初テニホノ海ト云フ始ヒリ湖ノ瀬多ノ所ハ鳥及
ニ似タク志賀ヨリ北ノ鳥ノ背ニ似タク北ノ方ハ鳥ノ尾ニ似タク東ノ
方彦根ノ方ハ鳥ノ腹ニ似タク首ノ人ハヨク形容シタルニソソ琵琶
湖ト詩モ用ヒトモニホノ海ト云フ詩ニ入タルヲ見ス鳴湖ナト云

（メカ）中華山東山ノ名ニモ鳴ト云フハ見ニタリ）

一亘牧ハ美濃人ニテ芦鹿ノ大慧寺ノ僧ナリ寛保元年ニ吉備
大隣寺遊リ去テ國ニ帰シ時予母ノ喪ニアフ送文ニ及ニ其後
再西还ス延享ニ丑ノ春吉備ヲ奔テ荒紫ニ方モムクニ時千鐘清
之徹過フ又詩モア送ルアタハスキハメアメアソ僧ニ是詩ニ耽ル
美濃ハ尾藩ニ近キ以テ時ニ名護屋ニモ至リ蘭阜木実園ニ
モ相識ナリ蘭阜ノトキ詳ニ詰ニ語ニ行峻樹門中興トモミキ
人ナリキ日懷之因テシ且ノ夏絶句ヲ寄ス其中飛錫翩翩桂落
暉天花忽映九洲光待君白足神道カ大海乘鯨萬里歸ノ
詩冬流ノ久留目（連シケルトナリ）丙寅ノ春東帰スルトテ未リタリ握
辛ノ鎮西ノヲ談スルニサマミイヲ聞ク霧嶋嶽ニ登リシト也コレハ

日向國ノ大山ナリ風土記ニ天孫高千穗ニ上ノ峯ニ天降シタマニ下
見ニ即ニナリキ父テ高キ山ニテ肥ノ阿蘇ヨリモ猶高シトエトナシ鹿
兒嶋ノ城モ目下ニ見エテ西洋海ヲ臨ムトナシ中峯ニ大丸穴アリ其ノヲ
リヒ八町モアル（陽焰モヘ出テ石巖恙ノカシトナシ）因テ七言律一章
賦ニシトテ倍リシ中春並赤壁彌天焰劍動青霄映十丈
ト云ハ寔錄ナリト五キサテ其劍ト云シモノハ土人ハ天ノ逆矛ト名ル
物ニカノ天孫ノアタクノ玉ヒシ時ヨリ傳フト云ナリ白石ノ著セシ
東雅ヲ考ルニ天孫天ノタリマセシ初ニタテシ序ハ今モ日向ノ
諸縣郡キツニ獻ニ現在スト見ニタソ尚神代考ノシ絶頂ニ
其船アリテ長リ三尺余モアレラン黄金ニツクレルマ地コリニ尺余ニ
至テ船ノ面ヲ彌タルツケタリ上ハホコナルカ盜賊ノ為ニヲレ

タリトニ其アソワセ數千年ヲ経タル物ニア神造トニトモ誣ガラス
覺ニト詔タソキ長崎ニモ至リソノ大音寺ニア玄海上人ミ謁シキ
詩文ヲ請ヘトモアメハス竊其文數百ヲ寫テ予ニ見ビン為ニ達ニ
携ヘ歸リトテ出セ視セタリキ予始テ玄海ノ文ヲ觀ルトヲ得タリサ
テ長崎ノ諫光和尚ノ書數紙ヲ出シテ予ニ視ス中ニ唐詩七言ヲ
書セキハナヲ美觀ナリ華人ニ中ニ今ノ清人ハ及ヘカラス清人ノ
長崎ニ居ラレタニ可亭草亭カ書ラ携ヘ走テ比視スルニ諫光ノ書
大ニ超過セリニ亭ノ書ハ見ルニタラス予擊節ノ悦ソリ又清人ノ
画ノモニセス風雅ナルニシテ諫光和尚ノ詩文ヲ見セラセキニハ
宋人ナルニ足ヌ諫光和尚廣澤勝公謹ノ書ハ和氣アリトニシト也
誠ニ熙也予宣謂告日本書恵ラ得タルハ徐翁一人ナソト予家

徐翁ノ真蹟ノ千鱗ノ絕匂アリ予カ家連城ノ壁ナリ出ソ諫光
ノ書ト併視ルニ諫光モヲサニオトルマシク覺エタリ華意ヨク解セ
タルト見エテ大字ハ猶尚可觀モノナリ客歲情人伊字九トニル長
崎木リテ書畫ヲナセルニ紙携歸リテ予見セタリキコハ草亭可
亭ノ及ヘキアラスサシク文首ニモニル詩一首ヲカナル友故ヲモ予ニ見
スルトテ携ヘ歸リ其詩記得天台岩歸漏山松露渥人衣十年眼
底無林廠今日畫圖看翠微ヒ丑秋八月唐山伊平九ト書テ
リ天台山ニ遊覽セルト見エタリサテ牧ハ中天竺ノ人ヨモ見タリトナン
三十餘年未ラサリシカ久シキテ絕タリシカハ譯師言ラ通スルトヲ得ス
清人繹ノ初ニ通シタルトナンサテ天竺ノ人夷松ナルト造ナリ宜牧
ミタリキ予笑ア師ハ釋門ノ人ニテ何ア天竺ノ貶スルベトニハ彼モ又

笑テ但ニ遠トナシ紅毛人ノビ未レル名ホウモ見タルト也牧カマトシタル
上人ノ館ノ前モ紅毛人ノ大船アリテ日々名ホウモ見タルトナシ劇談
ノ中子業走リ席上七律ノ賦ス一華西東大海灣途従練紗絲
雲間漏天光報金規坐範錫雲序赤馬関結社告曹無口眼
論文方外有青山漫游聞說津梁遍立十三貞問道還

一旦牧養疴テ暫大藩ニ留滞ス屢訪ニ来リテ西游稿フニス其
中赤馬関懷古周長西國道中ノ詩アリ又大寄府ノ古跡ヲモ見
菅公ノ祠謁ス各五言律アリ薩列モ十日ハカリ遊タリキ薩
列ノ傳閔サニミ傳ヒモ多クハ偽妄ノ說ナリ实ニ其詳尤モ閔
ニ鹿兒鳴ハ城ナクア館ナリ諸士大夫ノ多キト尾藩ニ三倍セリ
ト詣レリ又外城百十所及ヘリ其中積泉ノ高岡シアシ都ノ城此

四所ハ士千人アリ其餘ノ外城ハ二百乃至五六百アリト詣ダルト也皆農兵
ナリソレニ外城士トテ女シク鹿兒鳴ノ士ヨリハ格式オトムヤウ閔ニトナ
予謂處兒島ノ士ハイ全レ越王句踐ノ君子ノ軍ナルシ弁七十金城
ト閔薩列ハ大ニマサレリ不啻士東泰ト云ヘシ法令ノ嚴密國
有驚嘆スヘシ又牧日向ニアリテ名高キ古内和尚ニ相見シテリ又久
留米テ大夫有馬監物ノ別業ヲ觀ヒトナリ其時希世ノ珍宝玉右
龜カ画山水アシタルトテ陪リキ又肥後ノ熊本ノ城郭壯夫尾藩名護
庄ノ及ヘキニ非久清正ノ雄威ミツシト詔リキ役僧ハ始廉慨ノ節士
似タリ美濃ノ人ナリニ閔ケ直ニキリテ其驛ニアル處士園本半助カ古レ
閔直貯合戰ノ圖ヲ見又岐阜山モ度ニ遊タリシニカナメテ水ノ手
嶺阻三方ナシ土人今傳テ地田家ノ士ハイカニ重キ武畠タクタケア

ル所ノ攻エリシマト美談ニスルヲサミ、詔シ也今昔、大藩ノ士八岐阜
ミテ軍功アリシヲシリタル人サヘ罕ナリ世ノ人ニサマノナクシキサテ牧日
向國ニ宇吉山ノ靈巖毛鹿タリ是玉依姫ノ古跡ミテ鶴羽葦不令尊
クイツキニ所ナリ律詩作ルトテ雲菴隱見神靈窟内虫玲瓏
龍女珠絕壁烟花皆翠彩密門樓閣半虛無ナト云對ナリ詳ニ
其勝趾ノ於ス一ノ間テ殆卧遊ノ無採焉元上會翫首ノ音詔リ思出
テツ故又高良山ニ愈レリニハ武内宿禰ノ詞ナリ曰一座宮セ絕
アリ高嶽山是九區中峯雲盡王官孤仰君征戰功成後海
外三韓入版圖高良ハ筑ノ山ナリ又イツノ嶋ニ遊ニシ時ノ七律ニ雄
大ナリシ牧又玄海上人、文學ノイヲ問上人曰司馬班固ノ學フヲタ
シ彼二家ハタゞハ世諺云イリ豆二花ノサキタレ也何ノ其質ナキモ

人學ヘキマ後漢書アリノ學ヲ可ナリ入マスアノ又六朝ノ浮靡モアラヌ是
後世文ヲ學フモノ、輒範ナリト又筑ノクルメニテ國野三丘工門ト云人
遭タリキ國野數年所風ハナソレテ中華ノ潮列々タヨヒ是艱難
ツノサニメテ南京ニ至リテ送返ワレメリ其時古ノ魯地ヲ過シ孔
子ノ廟ニ華人ノ詣ルト日本今ノ伊勢參宮スルニ似タソレナリ國字ノ
記セル記アトリ出メ見セタルヲ詠タソキ珍ラシキ物語ナリトテ信レリ
一告藩廻川ノ東匪今ノ花島ト云所古ヘ別業ナリ官内局公諱忠雄
烈公復備前ニ封ヒラシテ後遊覧ノ地ナリ館アリ得内墓ト名ヅクトカマ予
カ外大入ノ及故ノ中ニ得内墓ノ記アリ禪僧ノ文ト見エタリ内序ノ
携來ソラ見セル也方二町ハカリニ過ス烈公ノ時アラタナリテ今ハ
士ノ居所トナリ官内局六城中三樓タ築キタラ今ノ月見ノ樓即足

一熊澤七郎又八郎ト五郎ハ猪太夫也猪太夫ハ幼名ヲ權八
エモト松浦侯ノ士ニカ故アリテナカノトキ出奔シテ 烈公事ヲ其
後松浦侯大郎ニ至ラヨタビテ 烈公ノ相見アリ權八茶ヲ持テ
生タリ松浦侯孰視アリテ烈公ニヤハ吾カモトニアリシ者ナリ國ヲ
先時吾アメタル折紙ヲニキサキア此折紙ヲ他國ニ持エキアソラタキ
祿ヲボル志ニアヌトニタリモ無礼ノ一言ナレトモソハ年若クテ短慮ノ
故ナリオニサキア志アルワカ者ナソ懇ニセサセタマヘトテ五ヒタルト也猪太夫
和歌ヲ好メ)

湖水

舟に休リテ行船の傍よ縁うる處の舟子、
舟世のやうも之のやうもくらひかねば、
後の川子

千鳥

舟に移す時の心腹をうてふるの五さくらん

ナト猪大夫ノ旅歌也應其記碑玉語等數部ノ書ヲ著ス碑玉語ハ今川行リ八郎ハ
大藩執法テ國政ヲ入テ擅ニシキ又方氣モアリ中院道茂翁人テ和歌ヲ能ヨ
一岩田翁ノ詩ニ禁裡ニアル午長足長ノ繪トハイカナル物ヤト岩田翁
ノエレシニエモトヨリ記憶セハルカニ後ニ清ナ納言カ枕草紙ヲ見出セ
ルシ考ニシ山海經ニ見エタル圖ナルニト思ハル

一元此嘗清ナ納言ノ對雪捲簾ノト語リタニテ今ノ士君子ノ文雅
ナキヲナキテ禪文學ニ志スアツ悦タニキ近頃枕草紙ヲ見ルニ其ノ

斐リ雪、いたりやうたまひ例外ともいはずもあらずてすいづる火
をかへてお焼けたりありまじかすか羽毛にのりかうの電ひがん
とほれどみゆきありませてみまくまくありだらうをばり
今ハ皆すくすく、多く放けよアヒトとひもあすりつれ世の
人にはまくまくすくすく其餘史漢晋書古詩ナリ皆ソラ
シタルテ枕草紙見エタリ先妣ノ放誨猶耳ニアリ其容ハ邈然トシ
テ逝タニス告孚ノナラサレ悲哉。又枕草紙ノ中、白キシキニ道ノ
タカミタニモ白ノ清キハタルモウレシ又セノ中ノムワクシフカツ時ア
ルキ心ナトモセリイツキモシナハマト思ニタノ紙ノイトシロフキヨ
ナルヨハ華ナトニレハカクテモシジアリスヘヤリケリト書タルコソ禍ト
同嗜好し物書ラサシ料ニヨキヘマハアル画自キアラモ書万

タクト覧也

一太藩地名ノ鹿喰島、草嶋ナト、エテ詩ニ入ハ可ナランカ琴浦
白石ノ如キモトヨリ佳名ナリ常山ハモトヨリ告太藩ノ望ニテ文主詩
入ヒテ雅正ナリ大キ御門、南門シカルヘシ石山御門ノ石門ニシテ坐
ヒシ論語魯向名也ノ見エタリアタノ御門、花門ナト坐ル(三目
安)御橋、諫橋元相應ス、ガ園山ハ春秋文記ルセリ銕御門ノ如何
シルス(キ半忘ハ半清然ル)平升山ハ烈公後冢山ト名ツテ名又
網濱(乞トヨ)宜ハ分山ハ秦山然ル(シ金山ノ一本松、孤松嶺トノ可
ナソ川向ノ花留得月屋(ヨリ)名ナリ平升ノ祠ハ華山トモアハ
尤宣(カニ)東川(モトヨリ)旭川ト名ツク詩入モ可矣(ヨリ)ニ本松
雙松驛トエキト子葉ニリニ行旅ノ人ヲ送別所ナリ別ノ茶

屋ハ如何詩ニ入ヘ吉備中山ハモトヨリ子日ノ酒ノ故事モアレハ
面白シ唐琴自和歌ニ入テハ雅ナレトモ詩ニ如何入キマ東山モト
ヨリ然ルヘシ魯毛孔子東山ニ登リタニシトアリキハメテ相應セリ
虫明風景勝レタルニ名雅ナラ又ハロ幅キ月見ノ御櫓八望月樓
尤然ルヘシ玉葛山谷キモノニハ見エスサレトモ佳名ナリ

一距木ノイ文学者房ノ要務ナレトモコノト知ヒ人歎ニ點龜固ア
文義ヨリルニハニ及父兄詩近體声ヲ譲用フルモ點龜ノニミタ
キ故ナリヘシ廣陵散ノ散ハ仄声ナリ平声ナリト云說アレトモ実ハ仄声
ナニ立元美カ絶句ノ房三旬ハ用タリ僧ノ大廟ノ華音自負
廣陵散ノ平韻ニソミタルハ却テワラシ將軍ノ將ハ平声ナリ大將
將ハ古声ナリマキラハニキ故南郭老師ノ宮詞仄声ニ用タマヘル

一時ノ華謡ナリ老師スラシ戸リ況マ吉備クマ中華人ノ詩ニ將軍
一将キ少テ平声ニ用タリ

一墳岐國否谷ハ滿谷悲佛像ヲ彫タリ數十枚ノ巖モ一天ニ
尺ノ石モ或五丈六丈ノナソラカナル所モ才シ斗ノ石モ彫ラス全シ佛像
數万々及スシトム人ノアルヲ在シキト惠ニシニ近頃岩田ノ翁問シ翁モ
此谷覓テキ人ノ言ニテモタカ父翁キ父テ勘弁ル人ナリニカ
石工ニシク語リテ計ラシ數百人ノ石ヲ以テ三十年ノ力ヲ不尽キル
カラヌト且數十枚ノ巖アシロラクムノ料用費ハヤク如何ナル人ナシ
タルトミ更心得ラレストテ詳ニ其見タソシノ諾ラレキ士人ハ弘法大
師ノ跡ト云ナル翁ウキタルト云人ニアスセハアマシキトヨソ多アレ
一告大藩ノ土肥典膳ハ_{四三}三百石世_古大番帥土肥矣平カ末裔ナリ丙寅ノ春

鞍役東都ヨノ帰ル時伊豆國土肥ニ三奇タノト曰但ヨソ南工
キテ根府川ノ閑所ノ跡六早川尾ニ至リシ即源平盛衰記ノ見エタル
頼朝夜中舟テ河ニツキタル幕引ヒカヒ大タヤテ飯ノ酒宴シタルヲ
忍ニテ歸ルノ見エタル是所ナリト也石橋山ノ道真田與一下文藏ト
カ古墳アリサテ土肥ノ村里ニ同姓ノ人ナシ然トモ一句ニ田舎ニテ王茶
トノ名ヲ早忘レタホトノ所タル申サラバ村里ノ人ノ中ハ実平ノ末アル
ケトモ分明ナラス善物モ文書モ傳リタルト一ツモナシ只寺ニ実平ノ
位牌アルニセドテソル土肥杉山ヲモ見テキ皆分内甚ゼハキト也ト詣
テキ

一日本ノ刑法古惡源太義平ヲ殺セシモ今ニ打首ノニカタ也ワレニ切手
難波次郎ナリキ重衡ナトモ打首ノニカタ也東鑑ノ中ニ切腹ナ見エス

トニ人アリ他日可考フナリ石田信部三成レ西行長才六條河原
テ殺サレキ打首ノ例ナリ仇敵ノ人ナレハトテ此二人主君豊臣氏ア
弑セルニモ非ス皆千乗ノ人君ヲロク白金ニ縛ノヒキハリ本シ打首ニ
エシフイカナルツマ心得カタシ 國初位命ノ臣皆文學ナキ故ナシ
既ニ神祖三成ヲ縛セテ後相見時平時ノ仰アシテヒト閑エ
人ヲ殺スモナト礼法ノナカルヘキ典臣秀吉ノ暴抗ナ嗣秀次ノ妻ヲ殺
シテ畜生塚ト名付ルニ至ルニセアヘナクモレタルコソケニコトワリヨ
一丹澤氏右軍ノ書乞ル瘡鶴銘ノ新刊本ヲ見セラル予謂道 ハニ及
父予書法一昧シ其直質ノ定ムト能ハシルモ華陽ノ直逸撰
トロアソリ昔時ニカマウノ号アルトガ大ニイロシキトナリ人其書法
宋人似タリ心得エストエタリキ後日危言ヲ考ルニ瘡鶴銘ノトガ

ニカナルヲナシ何マラシ小説見タルモト北銘ハ水中アリテ全文ヲ寫シ
得ケル人ナシ歐陽承叔七十字ヲ得テ自負セルトニトアノ後全文录り
出セリニヤ覓束ナシ五雜俎ノ中ニ迄テアルヘシ他日考ヘキト也

一日本ノ古八部縣今封建中華ノ古ノ封建後世郡縣名ト云及ス
ユニ因テ制度封大タクハ此字者心有ヘキト也中華古三代ノ
厚唇皆劍ヲ帝タノ祖秦翁孫子解ノ中ニ秦始皇ヨリ已後九腰ニ
シタルトセタノ泰始皇時ノ丁ハ詳ニ史記ニ見エメリサトモ兩漢ノ九
腰トハ見エヌ君子皆劍ヲ帝ヲシタルト漢書中ニ所見エタノサテ東
漢ノ晋須ヨリタルヘシ他ア考ヘシ

一 成毛ノ洋シルノ古ヘノ武將タテノ像ヲ画ケリ 繪ノ体百年許モ前
ノ物ト覓ニ天子ノ御像ト見タリ 大心得ラス平家物語平

重盛ス又相國ノ諫ラレシニ告國ノ天子イヲエテ其次ニ三公クル人ハ
皆天津兒屋根ノ御末裔ナリ 鐙ヲキレタニトエレタリ 重盛諫偽
ノ言テ吐ヘカラス又平丈モ冥錄ナリ 三公スニ甲冑セスシカルニ 天子
ノ御鑑紫色瓦ト見エタルハ何ヨヒルマ 神功皇后ノ外 天子
角曾シタマヒクナト評ナラスマシテ 鑑ノ方トニモ傳レヘキマウナシ只太平
記ノ中ニ南朝ノ天子八幡ヲ落サセタノ時山水判官カマイラセシ
黄糸ノ鑑ヲノストエタリ見エタルハ武士ニマキシテ落サセタノハ為ナリ
卷物三軸キナテ重宝ナリトテ或人見セラセキ

一 信州諫方ノ鵠岡ト今ノ詩人用ヒト何木ツケルカ夫木集ノ
和歌トケムル木ノイカニイトフランシムラワクルスハノ木海ト西行法
師ヨメノ又頭脳カ歌ノ永ソ居ア 岳行ワタリスルスハノ海ヲ出ワツラ

ス鴨ノウキ舟コレニコレ歛又箱根ノ湖ヲ盧洲エヘシ近東詩
人用タルト床見ス鴨ノ長明ノ道ノ記今ヨリハ思ニ乱ニ芦ノ海ノ
深キ恩ノ神ニモゼントヨメ)

文ニ入テス多キノナガシキ

一江後集鎌倉懷古七律十首刊本ニ逸スイカナリトミ南郭先師
ノ鎌倉懷古ヲ子式評ニ王季集中所立ト確論トスシ予謂
先師七首先杜諸將九首ノ上ニ万クシト但シ萬和尚光・鎌倉
遊ト閔ヒ然レバ一番鎌ト八覺ニコアタフルニ謙信ノト田原ニ攻入タ
ハ萬庵ノフルニセ也信玄ノ田原ニ攻入ケルハ謙信ヲ享平ノリ然レハ
二君ノセ律モニシニ比スヘヤカ謙信ハ敗軍セラタリ信玄ハ敗軍セラ
ス然トモ一番鎌隊傷タルトナトシニクヤトナレヘキマ予又謂萬庵

吾朝ノ江文通ナリ但拿列ガ歌行太白カセ絶ニ疑スニ難ナシニ萬
庵ノ詩ノ長ニ所ナリ天縱ノト摹擬ノリノ不及ラシニル也它人オノ
自眉ソニ必擬作スヘキニ予又謂懷古八萬庵得急ノ作尤シ日
本ノ故事ヲアノヤウミヨリマハスト南郭先生ノ外一人而已

一京極董門・拙華ナリニヨルニ世ニ珍宝トスルトハ和歌ノ以テノ故ナ
ルニ南郭先生曰迄家卿拙華ナレトモ和書 和歌ノ享成部
トエテテ知ラス書タルト見ヌタリソレニ直ラコトヲ能見ニト尤然ル
ヘキ説ナリ祖カ先君子佐理ノ大貳ノ書ヲ藏メ玉フ後雍部氏乞ト
藏公佐理ノ書法寔ニ吾東邦ノ房タルニ三鳴明神ノタチタニ
タルケニ理ミソ詳ニ増鏡ニ見エタリ

一熊澤ア久ノ経序・先子卒シルト多シ金ノ地中ヨリモリ生ス

トア忘タリコレハ前溪真商ノ說、述じたシ春臺先生ハ金ヲホ
ノ牛スヘシト経府錄見立ト久ノ說せ繆過半矣トモ又長計遂
慮腐儒ノ及ノ所、非ス枚十年已前ニエレタル丁の申ルト尤多
シ樂ヲ說、最確論トスヘシ古河、歩閒ノ後人未リテ學術又延革ヲ
詮スヘ答ヘスノ側ナル筆アヒヨシテ吹レタルト也古河ニアリテモ其モ
憂患ノ色ナ居子ノ操ミシヘシ、曹源君公ヲ諫ラレタ書一遍今、
下濃弦五左衛門家テリ、津田左近太ノ執政ノ國ヲ恐スルヲナケキ教
十條岳目ヲアケ方カヒタリ且中、或田四郎ノ夫日山ノ有サム今備前
見ルヘキノ十ヶカシサニカクハ中八トシルサレタリ此書ハ今夕明石ヨリ
ヨサレタルト見エ石川翁其書ヲ見ラレケルトテ詔ラレモ治道ヲ知レ人
了介ノ如キハ少カル、シテ介ハ婦人好女ノ如ク見エシト先人ノ詔キ

一九月十三夜ノ貴スルト伎然草、見エタルハ謡ナリ、中右記、保延
元年九月十三夜ノ月アヘ寛平法皇賓シタマトアリ也、廿官正相
寧府、三月十三夜ノ内ア見ル詩アリ然レハ其頃ヨソノトナル、源
氏メ霧ノ卷ニタキリノ大將小野ヨリ帰リタマノ時九月十三夜ノ
内イトナマリ指出タリ見エタリ六代集、六十三夜ノ和歌ナシト季吟
ノ說ナリ十載集、六十三夜ノ内ノ和歌アリ

一江陵集、擬唐刑川七律アリカレハ題岳武穆ノ廟ナルヲ岳將トシ
タリ烏石山人説レルニ

岳武穆廟 唐順之

丹青畫壁、閂柱旗想像、勤王轉戰時、黃屋木歸南、駕狩金
闕、已罷北征師、平東漢、朞朝隔、曠野陰、暮鳥悲、惟可西向

原上樹春來猶自發南枝

一伊勢物語見ニタルウツノ山ノツタノ細道今ノ驛路トハタカヘノ清
水谷実業卿閏東下向ノ時逢人ニ命中所セク引ナツム駒マラツシ越
ヲ歌テ 天子ノ近隣計ラレタルトナ又鍋田川ミテ誅タル都鳥ハ
鴉ナリト云說アリ然ルヘシキノ大サト物語見テハ大河ノ上ニ浮ニ
タリハナクモヘシツヘシ首ヨリ歌ニ都鳥ハ和田ノ御崎ヨシノ海高津
ナトヨミタリカラハ鷗ノ既シカルヘシ白鷗ノハシトアハ赤キナリ疑ア
モアラス

一平他國ヲ觀ルノ好ム 野巖嶋ノ因ハ身原益軒詳ニルシカケ
松嶋洞岩ノ因マノトキク松島ハ仙臺侯ノ封國ナリ備藩ト仇讐
國ナハイロルトアリテモ其地ニ遊覧スヘキ非レハセノア洞岩ノ因

ノ觀ルノ欲ス平東役ノ時東海道ヲ經西帰ノ時岐嶠ヲ經タ
平安城ノ地ヲハ臨ス

一今ノ和刊ノ杜注ノ左氏ハ末ノ本ヲ翻刻ミタル也ソニ工字様大ナリ
明末ノ刊本ハ字大父テ縞表ナリ好尚異ナル也今清朝ノ刊本
又キ父テ丁寧ニシム多ニ夷狄ノ風土ニ寛ニス康熙帝ノ遺詔ヲ
ヨメ誠ニ開國ノ人居非常ノ帝ナリ

一武家百人一首ヲ見ルニ古ノ武將タチ風雅ナル也近末戰國ノ諸將
モ謙信ハ詩歌トエガニワリタト信玄ノ詩ハ其時テハ詩人ト云
ニ柴田勝家ナハ無風流ナル人ト思ひ正敵トゾカコニテ辭世ノ歌
面自シ細川幽斎ハ勿論歌人ナリ蒲生氏卿ホトノ猛將ナリトモ歌人
ナリ伊達家ト國福ノ論アリシ時陸奥ノアタナガ原ノ里塚ニ鬼モレリ

ト古歌ヲ引テ勝レタリ里塚其頃伊達家ノ封地ニア安達ノ但ハ
氏卿ノ領シシトニマ幽谷ノ田辺城ヲアケ渡サシノ田子溝ハ玩物
衆志ト云シトニケルハナレトモ山城天皇ノ故ナハヤタナツ逃タ
ソトモガタシ文ラシニ文武ハ用ニタヌ也秀吉信長ナトノ治世ノ
短モ文ラシニ文武ナリ神祖ハ御學問アリタルト閔工林羅山
御尋ノコト皆文季ノ方ハシタル證ナリ今ノコトクニ武家ト覓テ
武ハ何ドニフ知ラス國季ノ和歌サヘ得知ラスハイカニシマ王ヘト
アサケシト昔ノ王人ハ多節疏ノ人ナリ徒然草ニ資朝ノ為幕大
納言トラハレタルトマノ一言英雄ノ志ト云シ源中納言具行元
享ノ乱殺サレ時露ノ身ノ草葉ニカレハミツアハレ東ノホゾ
カシヤトヨメル程ナソ鎌倉ノエタル地下ニサソ悦ニメト思ヘル

一或會武田勝頼ノ評判アリ金謂 神祖モ長篠ニテ柵木
ヲ前ミテ軍ヲナワレタル勝頼ナリ今人ノ云コトク恩ナル人非ス
当過キ元ヒタルト云トハ認ナリ女臣長坂跡部ニモサレタリ、武
田諸將ニ文字ナキ立礼義アトソキハハシルナレモ勇ト智ト
全ノ人及ヘヤ非久長篠ニ數千ノ火薈ヲ的ニナリテタクリタル
勇ナリ坐トモ長坂跡部ノニリツクルナハラヌニモ女臣ハ君ノタチ
モアフル立女臣ハセラヌ也コレニテ火薈ヲツルヘタルヨソ女臣
有吉シキナ見ノシ高坂ノ諸侯亡ル時衆ノマウナル士ガ集リノ
ト書タル六千載ノ確倫ナリ聖人ヲ起リタラトモ此言ヲアヘシ故
亡シトスル國ノ前ノニヒユヨリヨハナシ高坂ハ歴史ノ治亂ノ理ハ
ナチトモアタリ見タル故カクニヨリローラメノ見ルコソナソカ

烈公ノ即時青木善大夫執法ヲ全セラシ翌日追放
ノ士アリシニ善大夫ニハ某イマタ其罪ヲ知ラストアヘシト云大臣
既罪名キハリタヨ昨日ヨリ新職ヲ何ヲカシテト云シ、善大夫
昨ヨリノ新職ナ故ニソカクハ申セト争論ノソニ其人罪ニセリ
烈公大賞セカラヒキカル人モアルヘケトモ用テ子ハ土芥ニト
シキノナソセノ中、芥臣ホト恐シキモノナシ古ノ君子明哲保身ト
ミトワリ

一 東都火災ノ時淺草ノ内近頭殿ノ郎モ焼クノ野村先生モ灰ノ
傍シテ十町半モ出ラレシ時度ノ愛スル所ノ物居間ノ灰ノ上ニアリ指
キヲナリト至フノ間テトツテアヘシテ郎入テ見ハ黒煙モニホル木タ
灰ノ上右ノ書アリトコテ懷ノ出ル時門ハヤズイ中ナリ二神三四郎

燒死シタルハ此時ノフナリ高郎ノ戸ノカタハララ通リテ外ヘ牛ル時
野村ノ客舎、火災大熾ナリ此時、わまのぼくれり、あぬり、牛
キナリ宿と立のけり、今詠シ、鬚髮モガケテノカレ出ラレタソカ、
此キハテノ詠歌タレマノ人マ及ヘキ、今其事ヲシル人キ故ニ
シルス

一 徒翁ノ論ハタテノソロヌト覧工答問書ニ人找ハキス物ニアリト
エレタリテ此一句相劍ノ道ニトリテ恩過半上キノ古劍ハ十八九、
ハスアリ今ノナミクナ物ハキスナシ今本阿弥家ノ論ハ價ヲ定ルニ尤
ナリ今日用ニタル心ナラハ劍ノ白壁ノ如ク覧ヘタルハ笑ヘキナリ
タル批ヨリ外嫌ヘキアラスナルキリテ古人戰國ニ用タル劍
皆疵モ也 武列傳ノ印井重太夫賜允高田ノヲサ盛ノ

股指千戸一フリノキレ物ト云々然レヒ大ニ疵アリテ此短刀
他人キニワツリ賣物ナリ先時予貯ヘシト思ヒシニ一金ノ蓄モナソ
テ空ク打過ス今ヲ去ルト十餘年劍ヲ觀ルタヒ思ニ出セラヨシ此度
ミ圖高マウタマニシトキニ因子漢振也懲トワラハシヲカシキマ文
徳翁古言ニテ六性ヲサハレ其時代ノ言ニテカヌヘシトエシハ文
學精化丁燭得ノ見ソカシコレニヨリテ日本近末ノ軍記ヲ見ル
實錄虛錄掌ヲワスカ如シ

一白石ノ軍器考ニ鳥頭矢カノアリ未詳ナラストナリ
縣官ヨリ紀舊ニ余ヒテ熊野新言ノ宝物ノ因ヲ本サシメラル
新官鳥頭ノ太刀アリコハ 天子行幸ノ時ヨセラタル太刀也
由紀舊ノ士亨治田半た衛門忠郎君余ノ筆ヲ即摹得タリ其因

思秘シタソニテ去年戊午ノ写タリキノツラシギトセリハ應行
乱ニ王室ノ典籍ハナリ、ニナリタルト閔ニ木戸義公ノ典籍ヲ承ノ
モシトハ度ニ閔ニ日本史ハイカル體載ナリニヤ

一享保ノ縣官延享ニ讓位ノ後ヲハ如何ニスヘキマ太上皇トモサ
スカニ書ニ何トミ中華ニアテ、見レハカヌスト而已多シ南郭先生
ハ大坂陳ノアノ五傳ニ部ノ字數ニテアレヘシトノ五ヒシクトモ中
禪カ恩ヌテハ及ニヨラス丁也

一日本ニテヒケソリシハ何ノ唄ヨリミ今昔物語ナトニ見ル時ハ中、
ヒケソリク允トハ見ニス匣卒盛衰記ミ色白ノ靴里シト云々平氏
ノ人中アリ其頃アハソラサリシノ勿論ナリ又サカマキノイハ砂石集
月代ノアト、エーハレトニ僧ニヤソタル人アヌタル也北條氏ノ唄ヨリトモ

云又松永埠正始ルトモ云正シキ物ニ見エス又男子ノ齒降タルトハ
鳥羽院ノ頃ナソト也日本ニ周礼ニシノアメリ残リタルハ允糸ノ中ノ振
勅节シメワラシキト也人ノ死後ニ戒名ヲツケルト古ヘ天子ハ金剛
覓ナト戒名ノシメトモキ人ニトニ歎ルミハ非ス今ノ同ニ戒名ヲ
ルトハイツレノ頃コリマ韻鏡ノ名ヲ又スルト寛永始ルト尔非ノセ
テクニ詞華集ノ其時又スルハ者ト又ヨロシカラヌト也トニフ
云傳レハ其頃ヨク切ルミ日本ニヤマウノト云傳アリテ記録ナキト
多シ華人ノ如ノ華人ナル人ハ日本ニサキ東海先生右ノ手ニ華光
左ノ手ニ書ラトロ一生ヲ終ラシトコラニ必鶴鳴テ讀書シ或鳥ナキ
夜明テ鶯アイ子ラシ主毎モ朝子セラシト塾ニアリ人ノ詔リ
又仁齊ノ講ノ間ニ複言節ナシハ不寃感發シテ落涙ニ及キト名

不虛ケモト恩仁タリ唯聖人ノ道ヲ天地自然ト見ラシタルハ
儒同ニ丁ナレハ孔門ノ意味血脉ノ自負ニハアハヌソロシ
一筆ノ本ト云モノ數十巻アリ今此舞諸国ニ絶タルク如何告
舊桶屋町ノヲケニア男ハ近年ヲテ覓タルク多カリヤ甲陽軍鑑
談論理窟ヲ云タルハ皆舞ノ本ノ證トセリ其時舞ノ本ヲ正ニ実
錄ナソト思ヘニ時勢ノミツヘキナリヤマウノト瓊綱ナヒ時ヲシルヘ
烏聊シルス也老人ハ多ク舞ヲカセテ見タル人多シ

一大藩典刑教レシハ元禄年中津田氏ニ始シリ津田氏ノ雄々企及ヘ
キ所ニアヌ其執拗ハ王荆公ニ委任又神宗ノ王荆公住ニ五フヨリ
甚シ吾家ノ民部ヲ始ア剛正ノ賢者皆作遂セラレ殆國危ニ至
リ今ノ有司皆津田ヲ上モナキ賢者ト云是夏イ列公ノ典刑ノ志

マフリステ名也。ア介ノナ石レシモケニサルトニコノ

一休翁ノ学古今獨歩セリト思ハル大東中華ヲ去ル。三千里渺漫
タ。東海中生出テ先王ノ遺文。日月ヲ青天ニカケタルセウニ乞
ト。イロナレ人々及ベキ中華ニ生出タル人。聖人ノ國シハ。老王遺尺
二残レニ。トモアレキ誠聘唐ノ礼。元々。保元ヨリ數百年ノ戰國
テ。日本古ノ文雅モウエ真ノ倭奴トナリタル中三ノ先王ノ道文。辭ヨリ
見出シタル漢ヨリ後絕世ノ人物ト。キニマ刺。雅樂軍旅。マテキノ
ニ其端言一二。後人ノ及ベキ。非又。育方ノ。孔門ヨリ後誰マ
人カ及ベキ。今周南南郭晉星ヲ始トシテ天下知名ノ君子皆具
門矣。ソリ予其時ニ及。一謁。得ス。終身ノ憾ナ。一休翁ノ朱子比
ナル。論。レ。等心服セサヘナ。復古ノ論。五十道。クナリア定名

ト。開立巡六。身後論。未尽トアル。シソアトリテ。休翁ノ譏。レ。等
所不信ナリ。雖然。休翁ノ論ノ中モ。イロニモ免。束。ナキ。ナキ。非又。君
子小人。位ニトサハ。小人。道。不。學。口。セ。ニ。由シメテ。置ト。エ。ト。也
シ。ニ。能割符。アリ。レ。尼子。源。カ。小人。學。道。則易。使ト。エ。ル。ノ。論。語
微。ミ。古訓外傳。ミ。此所注ナシ。注。エ。ラ。レ。又。故ナ。ノ。然。レ。ハ。ユ。シ。ヨ。リ。後文
學精キ人アラハ。又休翁ノ說。モ。所。ニ。疑。ア。ル。キナリ。ウカ。經。字。訛
子復生。シタマハ。公事ハ。ヒス。ト。ナ。レ。シ。多。言。教。窮。ト。五。丸。左。子。ノ。言
サレ。ト。ヨ。ソ。

一野村先生諱尚房俗稱權六郎号一枚軒和字ノ文章美麗ナ
常ニ。原氏物語ハ。擬シ。タシ。ソ。ヨ。ノ。後。上。手。ト。エ。六。人。サ。シ。近。頃。ノ
木下長嘯氏一人ニト因。ノ。奉白集ノ和歌ヲ。取ラヌ。其文ヲ。字。ト

予近日雲同上人ノ徒然草ヲ讀テ驚嘆シキモシ先生ヲ在世ノ
日ナラシカハヨレラズメタランニ必見識大、變化ノ源氏物語ヲ擬エタル
キト思バシテ遺憾ナリ先生ハ文封内五次殿ノ家ニ仕ソ後辞俸致
仕市中隱ル時ノ和歌、ナハカシキ市ノ隣アノカク家ナラヌ飄ノ風
ハトシ禱日高於許由一等

一先妣遺蓬ノ中立極十納言小倉ノ山莊ノ軒端ノ松一包アリヨシ野
村氏遊覽ノ日一枚葉ヲトソラ帰ノタマニ也其時ノイフニセニ嘉ノ
ノ古跡ハ今ノ二草院常寂光寺ノタリ、ナンカノ卿山家ノ松ヲ詠セ
ラル思ひノルわくホトトキ山中軒ノ松とタクナシ久シ續古今
集ニ載セラレタゾ今其松十木二葉ノ木アリキ丁勿レシロカクレトウタヒテ
ニ氏ノ心モサルコト覧テ今此松ノ老木ノ陰ニ

ヨリ以下野村氏ノ和歌予記臆セラカハリシルニ他日其集ニ因テ精鑑ス
年ノクナ述懐の念成

夜前川うきしよつまく稀舟のれりぬく御舟も多く年後
述懐の意に

稀舟のうきよつまく稀舟のれりぬく御舟も多く年後
力はんかひてゆくとも

夜前川のうきよつまく稀舟のれりぬく御舟も多く年後
思ひ出

稀舟のうきよつまく稀舟のれりぬく御舟も多く年後
郡史の職業ア作リヨリ述懐ノ夜前川の意ナリ事ナキ

郡史公室ノ日記つ手成度、夜前川よりして述懐ノ意

事は見えぬ

室川の行えぬ脚本の方に又手し行段の移舟
廣さうでうけよ成る書ひと作る
多う多くと人者と手の海にかゝる所があつて
内日こゝのふるいを送りに禪の器を
せしら、波もいつと送り来て、いとまきをもつて
あまびはへり侍とすのやうの故に
ゆきしよか（わせくえ）とすのち手の君のうれし
楠庭尉乃討死の跡と石碑立木にわたりて
漆川のうき金にひそむハシテものうるうのうる
俊吉のと一物の款とみ作とります。徐化りて善く

久居したるもありかな一花や咲くも物の年をきて
或人のと伊核の子とにはまつて
其によくおは新ははの身もひもくぬまの聲
豊公の名香を下して翠竹たゞみどりれんとさの
立と上緒され。下ととむ（是云ハ墨田
のうち煙も島山公御と吸うるわすれ室に下して
便風と晚に北ねまつて

やまとする光ばかり立てむ間の草のう明の月

哀傷

あらぬよもよとくさんま御山よりよれりよれり君

開路早春

室よもよとくさんま御山にありて君の色も立らん

旧草書イ

谷かきうとあづく、雪の冰波も時かう

名所鶯

高きやくよ春ひすみのし、さくらに雪のうを

閑花

寒の月も花を光に似ゆて、うの音うけ、うの山

野外徒然

長用川有るうすに、アリの少めのとくわゆ

閒初雁 一日百首中

浦遠くりの波、さや故に、うす堅田の原へゆく

春濱月

空と今霞じと春の海へ、やおむら月夜の往く、九瀬

待閑耶ム

有明れ山郭公侍山くまく、次ハニルもわ、いよの多

古河夜霧

住田川五、下波れタマツに、日もくれぬや舟名、

橋落葉

絶えく山の嵐、くもや木れ葉、くも、青の橋姫

冬月

鶴も秋す、下よし、木の霜、木の月に、白き光

豊明節會

お、衣袖、ひそり、さわざと、遠き光をせんに、のこぐ

待空飛イ

月暮月とぞり、器もどすに奉ひ夜す有明の秋

水

人今まうれけあよすきのうわくもすまほ

役

がりきのうる其世の半も絶きぬやうに至る

モイ

わふも名いはくも民くわゆてものをもすらん

仁

海すと遠すとに舟のうすまじくの浦

羈中川

鳥の名は都や一川鴨川をくも東ぬり旅おむハ

浦霞

吹風も川も固すれ浦霞に春ハ霞の立と日をみ

雪眺モ

立と小のゆきけりせんと雪ふのとほ了断の簾舟

行秋艸中

旅人のうらせす真萩のうひよりの袖やるるん

深夜帰雁

行雁小音もわくねじうちと霞の月よす隠す

郡更に仰に享保の年々く雨すて民の憂に

侍り、玉井また祈らとて

木ノ

利の雨もうかげつてもうじと舟の雲りのえ

かく神感もありとて一日の後に兩方侍

わす更衣にうて承更衣も六月後

川波の川の世風もさう清き川波とまく麻の葉
波波とおもは波の波の波の波の波の波の葉

肩二日すの方より

わんせの有のすみよの草すみよの草すみよの草

用夜の例か

うの生くと育もろと育時のかわらかわらか

用こうに

まよしすまよしすまよしすまよしすまよしすまよ

年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年年

いりゆきうとまのまかくで今文書ひ、神とまく
うきそくすくまほのりかくまの神とまくにまく
セセリキナム

七日いのちよの色の二才

墓へ

身をも神めくやまの永消するの所かく

己身百々

きよりり教も時の万能書も院の夏の間

元祖曰先生喪房、享保十三年十一月先生文寔極至日、京氏甚不
憲ナリ衣食ノ一至テ先生ニフ場ルト篤美ナリ小棒三口ツツカ
養タル隠逸ノ志夙昔ヨリテソニ故娶ラス弟乙テ後常ニニア

誠

吉原ノミルト先妃ヲ肩スト恩ヘ今喪失ストテ涙下ノヤ何同ナ
四年正月十七日下世祖夕先君子後事ヲ延紀ノ祖アメ其事ヲカサ
トラシム十五年ノ歲暮ノ歌春秋トアキケル花ニスル蝶ノ子アラ又斐
ニクレシ一年何ドマランイマミシキ休ニ覓キカレ其誠トナリ允欣

一應享五年戊辰三月十九日　敦隨謁シカ為木明ニ國山ノ都城ア
巣ス。時熊野ホキア通ク是ハ津田左近太承忠ノ岩石ア火ニテ焼ニ準レ
通セリ所ナリ奉國既艱既役ナリ寔ニ非常ノ人アリト思ル人ニ皆三人
カノ及フヘキノ非斯ト皆人ヨソシルトナレハ許セス和氣ノワタリヲ越テ
和氣穴觀音ニ至ル絕壁十仞アルラン其中石ノ洞アリ深キ丁八九尺
分リハ六尺余石洞キハテ白石乳流し出ア白粉ヲスル如クナル所ナリ
キリ即筆ヲトテ絶句一首ヲ石穴ニ題ス兩水イレキヤウナニ千秋ニ

傳ヒキ者ナリカクト知リタリセハ豫ノ既吟昔思メ作ヒヘヤク瞬目ノ間
テ醜態アリ以今ミレハ後悔甚シモト石洞ノ中ニ觀音大士ノ像アソシア
和氣ノ寺アリメタルト云ノ石洞ニ至ル道甚嶮ナトモ屢曲ニテ登ル櫻
木六株アリ高キ二町金モナクリア石洞ニ至ルタクヒキ美觀アリ石洞
ヨリ見下セハ和氣ワタリノ水北ヨリ流レ景元更カラス和氣ノワタリハ即
吉井川ノ上ヲ備藩ニアリ大川ナリ晚ニユハ新邑宿人主人即施平
熊澤大夫伯継急ナソワニ舊相識アラス使ノハニテ宿センコラ請フ
然半年卒六門外生テ招ク入レクノ茅屋ナリ男女一人既四人アリ伯天
古五人モアリシ和氣海道ノロタハ賣物ノ立出シ農屋然平アリ其主
フニシタルナリサガ熊仄大夫ノ血脉尠アラス裏ニ大丸酒藏アリ富有
タクヒマレル今リ即置酒シテアメヤニトメクノ明日廿日大兩ル旅

平兩ノツイテ行コノ憂テシキノトノ朝炊ヲガソクシテサラニテ行
ヲラシムヒテ謝ニエテ尺新邑ヲ出テ藤野驛至ル寺ソリ其寺前
節平家物語見エタル倉光ノ瀬尾太郎カ計ソシ處ナリ寺古文書モシ
ワニ御色ヲ過テ和意合ニ至ル溪水一帶流し出シテ左ニワタリ石渡ル
ト十八度合ノアリ立箱根山中ノ如ニテ重道日不敦隴ノ下ノ門ニ至ル
門前ニ舊所アリ庄ノ方谷ヲ隣テ守墓ノ家アソ辛墓ハ中小性左門ナリ
即其家主リ礼服ノシテ後門入門ヨリ第三ノ山至ル道屈曲シテ
登ル道ノハ一間半余其直中川ノ石ノ石ヲ八町ガ間ナリタリ門
入りテ右方ニ烈公ノ邸入ソアリ允時ノ茶座アリ烈公裏中ニ久
介シタルトテ焼大間モアリ浴屋モノリ鰯薄ノ人數ノ居ニ所厨
僕從ノ浴屋ヲ悉備ソリ家敷十軒斗モアルシカア次序ニ又ミ行

道ノ左石櫻ノ花多クアリ芳野ノ畠モカクアルヘシト思ヘルマダ散リノ
コトタル花モアリマ、雨モハケレカラス既ニ第三ノ脚山ニ至リテ
烈公ノ寵謁ス隨前ニ木柵アリテ鎖スニ山ハ上ノ平ヒ所三十間分リ
キルヘキ鎖アヒテ内入ソテ白砂ノ上年伏ス年伏畢テスミヨリ
テ内ノ石柵ノ所伏テ窺ヒ奉上方ニ丈高一丈モアルキ馬鼈封アリ其前
碍アリ左夫人ノ碍アリ馬鼈又同シ石柵碍精アリ石柵ノ側ニ神道
碑アリ烈公ノ碑夫人ノ碑トモ臺ノ石トモニ石ヒトツ也口如此
ナタリ神道ノ碑ハ上ノ才ホテ石モ下ノ臺ノ石トモニ石ヒツナリ其形ナ
トソテネスカシキ鳥アリ倍ナル奢侈ナル露ハアリモナシ唯午間入タル
ト千乘ノ國ナラテハ決テナシ得カメヤアリ木柵内高廿尺分リ尾ノ

如物ナレシ御墓參ノ時ノ用ノタノ也木柵ヲハル丁數十步ノ府
庫アリ烈公ノ御物具ノイヨクレケルト也烈公ノ甲冑ト前年
詳ニキテノ後記サスサテ第二山ニ至ル興國公ノ隴ナリ夫人
柳原氏合葬ナリ碑馬鬣神道ノ碑石柵木柵瓦ノ屋皆同シ但シ地
平左所ニシテ地勢ヨリ石柵ニカタサツ達ニアリ烈公ノ石
柵外拜毛所六石砂アシケリ興國公ノ石柵外ニ青キ小石ア
ケリサテ第一山主ル木柵石柵皆同シ國清公ノ隴ナリ馬
鬣又同ニ碑八塊ナリ龜趺アリ唐ノ礼ノ用ラレタルト見テ龜首高
廿三尺ナ餘アルヘシ龜首ハ四向ノ碑ノ高ヤ七八尺余金ハ三尺近見工
碑首天禄碑耶向アリテ立タル所ノ形ナリ神道ノ碑東ノ方ニアリ合
葬ナシニハ故アレトナルヘ大義夫人ハ狂疾ニ一度出サセタマ

ノ故ナルヘシ國人云ハ國清公ノ隴ノ一ノ御山ト私シ奉リ
無國公ノ隴ノ二ノ御山ト私シ奉リ烈公ノ隴ノ三ノ御山ト私シ
奉ルサテ旁四山ニ至ル備後守元君ノ隴アリ傍ニ新八郎君ノ
隴アリ其外旁ニノ山アリ山ト云皆二ノ平丘所ヲサス第上ノ山六
八町ハカリアリレバ公族ノ墓アリ國清公ノ一ノ御山ノ御山
無國公ノ隴ハ皆烈公ノナシタマヘ所也ニノ山ノ石碑等ハ
曹源公先君ノ制ヲ承テナシタマヘルナリ烈公一事モ礼ヨリテ
名ハヌチナシト見ヘタリ日庚ニテヨリルト創メタマス周公旦ノ礼ノ作
名ヘルヨリモハツカシキナルヘシカクテ山ヲ下リテ守墓ノ所帰ル既
公半時ナリコヨリ開谷旁モムク又働邑ニ下ルコノ時天雨イヨク止ス
溪水ヲ渡ルト土ノ大ナレ湯布ノニシケリ烈公ノ神文臣ニ寵

雨火ニヨツテ歌アシメシタマヘシ拜謁既畢テ酒ノムヘシト云行厨ノ
杯アシテ溪上ニ立テ痛飲ス狂癡スルト甚シフセヨリ勧邑ト走リテ
閑谷ヲク日暮ニテ恐テ道ライソク閑谷ニ至リテ驚愕甚外ノ
タニ野ツラノ石ヲミテ壁ヲセリ高サ六尺ハヨリ根方キハ七尺モアルヘ
シ地ヘ入ルト云石中ヲナキリシメシタリイカナル地震モウコカス
ガラストエリ庭曲ノ山ヲイケルト幾千丈ト云ト知ラス中ニ講堂ア
リ講堂ノセクニ板ハアマキナリツキ茶ヲヒキテハナシヨクテ又ウスキ茶
ヲヒキテ色ヲナセリ尾ハ伊部ミテマカセタルト也尾ノ下ニ銅ノトヒラニテ其
上ニカハラヲ敷タリヤシノ木ヲケリ尾ノ裏ニツクヲ出シテ其本ノイースリ伊
部ノ焼物ナレニ碗朱色ナリクキカクシハ金銀ノ類不可缺トテウシノ
ナリ上ナリ講堂ノ左ニ大成殿アリ掲ノ俗奢美華麗ナリサ元ナニ

筆毛尽スカヌ奉始皇漢武帝再生シタマヒタルコトハヨモナシタマハシト
思ル但孔子ノ像ハ鑄物ナリ大成殿ノ左ニ芳烈祠アリコレ
大成殿ト同シ烈公ノ像も鑄物ナリ閑谷ノ一事モ礼ガナヒタ
ナシ門ハ学校ト云榜アリニツ諸侯ノ國ニノ學校アルト云丁和
漢古今ニカマウノ礼アルマニレ無礼ノ一也學校ハ礼法ノ所也奢
美トニ礼法ニアルヘヤ是無礼ノ一也學校ハ礼法ノ所也奢
中ニ學校ヲツルト何ノ用ソマニ其不知礼ニツリスヘテノ丁字辱ノ
法ヲナセリ像ヲイルノ類コレノ事不知礼四ツナリ烈公即世後
此大後アリ數億萬ノ金貨セリ津田氏ノ狩宅也所ナリ烈公
神イカハヨリナリキクマアキ其餘無礼不法言語ニタニシノ孔子諸
侯配メ參ルト何ノ礼ヨレルマ永忠忠遂ノ跡矣百代ノカルマ

物ト思心伊里中邑至ル既ニ日暮タリ行上ノ驛ニ至ル宿ス
夜初更ニ過タリ廿日行上ア生テ歸路天瀧山ノ勝ノ見ント欲シテ
山ニ登ル十八町西法院ニ至ルコシハ住持ノ僧致シ詩ヲ請タルカ
ソアリ即寺入ル住寺ハ不仕テ小僧告ナムテ名高キ帰布フミセ
ニシレヨリ熊山登ル進往極テ峻蘿ク攀テ又ニ行クト或盤ト
エテ知ラスマラマソ熊山ノ本堂ニ至ルコレ太平記見エタル兒島
備後三郎高徳ノ旌ツカケ所即今ノ本堂ノ前々千角ニ所也鐘
樓ノ西ノミナル石即高徳ノ腰アケテ士平ニ令セルトナリ今高
徳ノ腰掛石ト云大平記見タリ南面ノ長坂トアレハシ今仁王
坂ト云地ナルシテ所サシ平ナリ軍スキ所ナリ熊山ノ本堂絕頂
アリ北ハ自齋ノ大山東南ハ室津院路島東ハ大坂城西ハ備中悪ノ

目曉ノ中テノ極ノタル高山ナリ錘櫓ノ西ノスニ戒壇アリニ
ハ南都ア招待寺荒竺ノ觀音寺閑東華師寺ノ戒壇ト周
シ日本ニ四ツノ物ナリ石垣ノ三階ニギアケタルモノ也ソレヨノ坂
根ニ道四十町喰ニン方ナニ一步ヲ失スハミナントナルキテ
幾所ト云ツア知ラス坂根ニ至リテ吉井川舟ニ乘ソリ川アワタリ國
山崎ル初更ヲ過テ便レメル丁度シ藤井驛ヨリ馬ニ扶ノセラシテ
其翌日二日後華聊ニシニ置ス

一又按スルニ國清公ノ碑制羽ノ法ニヨリタマヘト覓ニ唐ノ制ハ
寒酸也故ナルシ。又平家物語ノ按スルニ藤野ニテ八倉光ノ見ニ
三石トアリ藤野ト云ハ盛衰記ニ出タルロ。又按スルニ太平記ニ熊
山ノアエテ麓ハサ嶮ニ上ハ平ナリト云リ麓ヨリ山ノ七八久ニ至リテ

險甚。亦熊山ノ僧白巖山ニアル戒壇トハ女シク異ナリ。熊山ノ
戒壇南都筑紫開東西所ハ戒壇ハ梵網經ニヨツテ作レルナリト
ニリ。又熊山ノ僧白是寺ノ創造名ナリハ南都ノ七大寺ヲタテラレ
タレ。開基ナリ近頃松田ノ乱ニ亡ノ浮田家法華ノ尚ニシ
クハ寺ハナソナソシ寛文年中再興ヒラレタルトエリ。高山ナル故
寒甚メ早ク損スルトエリ〇又土肥典膳ノ問。大義夫人ハ中
川氏所ノ長孫シタラ良照翁主神祖ハ京都妙心寺ノ中良
照院。葬レリ。又ハ因幡侯コソトリ計。名故。國清今舍葬
ナシ。但シ此ト詳。記ス。カス。同廿五日公族進酒。謁ノ敷土山ノ
ヲ尚詳。門ノ敷隴ノ外門ノ八町ノ坂ノ間。石三千七百束アリ。

